

第55回 東海財界倶楽部例会

愛知県議会議長石井芳樹氏講演 政治家の役割について語る

中部財界フォーラム社が主催している「東海財界倶楽部例会」が11月7日、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開催された。例会では講演会などを行っているが、この日の講師は、第103代愛知県議会議長の石井芳樹氏（長久手市選出、4期）。石井氏は愛知県の深刻な人口減少について危機感を示すとともに、大規模事業やイベントなど県の具体的な活性化策を解説した。

講演で石井議長は県人口が2019年の755万4000人をピークに減少に転じ、市町村では昨年9月までの1年間に人口が増えたのは県内54市町村のうちわずかに日進市、長久手市、大治町、北名古屋市など11市町にとどまったと指摘。「人口減少地域が名古屋市を含めて県内全域に広がっている」とした上で、都道府県別の合計特殊出生率（人口増には2.06が必要とされる）で愛知県は1.41で全国23位と将来も人口減に歯止めがかかりそうもないと危惧した。

続いて、政治家の評価は低く、選挙の投票でも候補者が若い、爽やかだからという理由で選ばれるケースも多いのでは、として、「皆さんの貴重な税金を再分配するのが私たちの仕事で、お金をいかに有機的に予算に反映していくかが政治にとっては重要」と述べた。政治家の世間のイメージについては、小中高校生に将来になりたい職業を聞いたアンケートで、会社員やサッカー選手、ユーチューバー、漫画家などが上位を占める中、政治家は141位。140位は入れ墨師、90位にシャーマン（祈祷師）があり、「僕らは一生懸命やっているつもりですが…」と子供たちの薄い認識を嘆いて見せ、上水、ワクチン、教育など重要施策で国と協力して県が市町村を支援していると役割に理解を求めた。

また、愛知県の今年度の主なイベントとして



来年3月に常滑市のAichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で約250社の規模で開催する「グローバル・インダストリー日本版」を紹介し、県内企業の展示やセミナーや海外企業の出展もあり、大きなビジネスチャンスに期待感を示した。観光集客力が期待される地元のジブリパークも来年3月にはフルオープン予定で、食事や宿泊客を増やすことで年間約480億円の経済波及効果が予測され、県活性化の重要な要素になると話した。また、愛知県新体育館として2025年夏オープン予定の愛知国際アリーナも最大収容人数17,000席、大相撲開催時は両国国技館と同規模の11,000席が可能となり、フィギュアスケート、バスケットボールの国際大会開催への期待も膨らむとのべた。

さらに懸案の中部国際空港の2本目の滑走路整備や航空宇宙産業、ロボット産業、豊かな資源を持つ農林水産業強化など大村秀章知事とともに積極的に取り組んでいる姿勢を強調した。

最後に中曽根康弘元首相の「政治家は歴史法廷の被告」という言葉を引用して「10年、20年先を見据えて働いていくのが我々の仕事です。皆さんの忌憚のないご意見を実現できるようにしっかりと進めていきたい」と決意を述べ、出席者から大きな拍手が送られた。

この後、学校法人佑愛学園の丹羽司一理事長の発声で乾杯、食事をしながら名刺交換するなど歓談した。